

# 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所の 取組について

令和4年10月5日 特別支援教育の推進に関する関係課長等連絡会議  
独立行政法人国立特別支援教育総合研究所理事 梅澤 敦

# 指導者の養成

## 特別支援教育専門研修

障害種別に対応した専門性及び指導力の向上を目的とする研修（約2か月）

- ① 発達障害・情緒障害・言語障害教育コース（5月～7月）
- ② 知的障害教育コース（9月～11月）
- ③ 視覚障害・聴覚障害・肢体不自由・病弱教育コース（令和5年1月～3月）

## インクルーシブ教育システムの充実に関わる指導者研究協議会等

国の政策的課題の推進や教育現場の喫緊の課題に対応する指導者の養成を目的とする研修（各1日）

- ① 特別支援教育におけるICT活用に関わる指導者研究協議会（7月21日～22日）
- ② 高等学校における通級による指導に関わる指導者研究協議会（9月1日～2日）
- ③ 交流及び共同学習推進指導者研究協議会（11月25日）
- ④ 発達障害教育実践セミナー（令和5年1月26日）
- ⑤ 特別支援学校寄宿舎実践指導者協議会(連携研修)（8月26日）
- ⑥ 難聴児の切れ目ない支援体制の構築と更なる支援の推進に向けた地区別研究協議会

（3地区）

昭和46年のNISE創設と同時に研修事業を開始して以来、令和4年3月31日現在、  
特別支援教育専門研修 受講者数 10,038名 その他の研修の受講者数 12,669名

# ○特別支援教育専門研修

＜目的＞ インクルーシブ教育システムの充実に向け、障害のある幼児児童生徒の教育を担当する教職員を対象として、多様な学びの場（通常の学級、通級による指導、特別支援学級、特別支援学校）における各障害種別の指導者（スクールリーダー）の専門性向上を目的とし、専門的知識及び技術を深め、指導力の一層の向上を図り、今後の各都道府県等における指導者としての資質を高める。

また、特別支援学校教員においては、幼稚園・小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校を含む地域支援の一層の充実を目指し、地域の中核となるようその専門性の向上を図る。

## ①第一期 知的障害教育コース

**（募集人員：70名）**

期 間：令和4年5月9日(月)～7月8日(金)

集合・宿泊型研修期間：5月30日(月)～6月17日(金)

## ②第二期 視覚障害・聴覚障害・肢体不自由・病弱教育コース

**（募集人員：70名）**

期 間：令和4年9月6日(火)～令和4年11月11日(金)

集合・宿泊型研修期間：10月3日(月)～10月21日(金)

## ③第三期 発達障害・情緒障害・言語障害教育コース

**（募集人員：70名）**

期 間：令和5年1月11日(水)～令和5年3月15日(水)

集合・宿泊型研修期間：1月30日(月)～2月17日(金)

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各研修の実施形態は、開始3～4週間をオンライン、中間3週間を来所、後半3週間をオンラインとして、実施予定。

# 免許法認定講習の実施について

特別支援教育専門研修の受講者のうち、希望する者に対して、教育職員免許法施行規則第7条表第一欄、第二欄及び第三欄に掲げる科目の一部又は全部の単位を取得できる免許法認定講習を開設し、特別支援学校教諭免許状の取得等に必要な単位を授与している。

## 取得可能な単位

①特別支援教育専門研修(視覚障害・聴覚障害・肢体不自由・病弱教育コース)で取得できる単位

(第一欄) 特別支援教育原理Ⅰ 1単位

(第二欄) 視覚障害児の心理、生理及び病理 2単位／視覚障害児指導法 2単位

聴覚障害児の心理、生理及び病理 2単位／聴覚障害児指導法 2単位

肢体不自由児の心理、生理及び病理 1単位／肢体不自由児指導法 2単位

病弱児の心理、生理及び病理 1単位／病弱児指導法 2単位

(第三欄) 重複障害・LD等教育総論Ⅰ 2単位

②特別支援教育専門研修(知的障害教育コース)で取得できる単位

(第一欄) 特別支援教育原理Ⅲ 1単位

(第二欄) 知的障害児の心理、生理及び病理 1単位／知的障害児指導法 2単位

(第三欄) 重複障害・LD等教育総論Ⅲ 2単位

③特別支援教育専門研修(発達障害・情緒障害・言語障害教育コース)で取得できる単位

(第一欄) 特別支援教育原理Ⅱ 1単位

(第三欄) 重複障害・LD等教育総論Ⅱ 2単位

# ○指導者研究協議会等

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンデマンド及びオンラインで実施。

## ①特別支援教育におけるICT活用に関わる指導者研究協議会（募集人員：70名）

<目的> 各都道府県教育委員会・センター等の指導主事及び指導的立場にある幼稚園・小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校・特別支援学校の教員を対象に、特別支援教育における教育支援機器等の活用に関する専門的知識を深め、各地域における指導・支援の充実を図る。

<期間> 令和4年7月21日(木)～22日(金)

## ②高等学校における通級による指導に関わる指導者研究協議会（募集人員：70名）

<目的> 各都道府県等において、高等学校における通級による指導に関わる指導主事及び担当教員を対象に、研究協議等を通じ、担当者の専門性の向上及び高等学校における通級による指導の理解推進を図る。

<期間> 令和4年9月1日(木)～2日(金) \*オンライン実施

## ③交流及び共同学習推進指導者研究協議会（募集人員：70名）

<目的> 各都道府県教育委員会・センター等の指導主事及び指導的立場にある幼稚園・小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校・特別支援学校の教員を対象に、研究協議等を通じ、各地域における交流及び共同学習と障害の理解推進を図る。

<期間> 令和4年11月25日(金) \*オンライン実施

## ④発達障害教育実践セミナー（募集人員：70名）

<目的> 教育委員会及び教育センター等の研修担当の指導主事等を対象として、発達障害に関する専門的知識を深め、研究協議等を通して、各地域における発達障害教育の実践的な指導力の向上を図る。

<期間> 令和5年1月26日(木) \*オンライン実施

## ⑤特別支援学校寄宿舎指導実践協議会（募集人員：50名）

<目的> 特別支援学校寄宿舎における幼児児童生徒の生活指導等に関して、各都道府県等の寄宿舎指導員による実践発表、情報交換等を行い、寄宿舎における指導の充実を図る。

<期間> 令和4年8月26日(金) \*オンライン実施

## ⑥難聴児の切れ目ない支援体制構築と更なる支援の推進に向けた地区別研究協議会

<目的> 難聴児の早期支援に関わる全国の特別支援学校（聴覚障害）乳幼児教育相談担当者等の専門性の向上を図るとともに、保健・医療・福祉・教育関係者間の連携を促進する。

<期間> 令和4年8月24日(水) 北海道・東北地区、12月1日(木) 関西地区、12月16日(金) 中国・四国地区  
\*オンライン実施

# インターネットによる講義配信 **NISE 学びラボ** ~特別支援教育eラーニング~

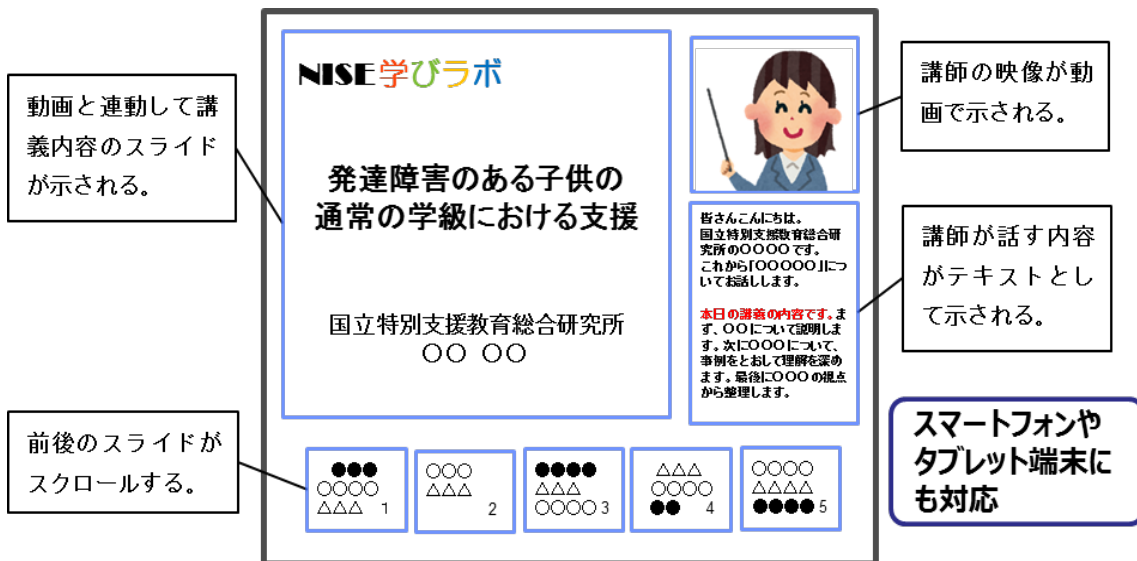
障害のある児童生徒等の教育に携わる教職員の資質向上を図る主体的な取組を支援するため、インターネットによる講義配信「NISE学びラボ」特別支援教育eラーニングを行っています。

## 講義コンテンツ分類

- ① 特別支援教育全般
- ② 障害種別の専門性
- ③ 通常の学級における学びの困難さに応じた指導

## 団体登録により研修プログラムが設定できます！

教育委員会等の機関が主催する研修等で、受講者のニーズに合わせて複数の講義コンテンツを組み合わせた研修プログラムが設定できます。修了者には視聴証明書を発行します。



スライド及びテキストの内容はPDF形式でダウンロードできる。

## 映像講義のイメージ

No	研修プログラム
1	インクルーシブ教育システムについて学ぶ
2	特別支援教育コーディネーターになったら
3	特別支援学級(知的障害)の担任になったら
4	特別支援学級(自閉症・情緒障害)の担任になったら
5	特別支援学校の教員になったら
6	通級による指導の担当者になったら
7	小学校・中学校等の管理職になったら
8	高等学校段階における特別支援教育
9	幼児期における特別支援教育
10	全ての教職員を対象に: 本人・保護者に寄り添った指導・支援のために

# NISE 学びラボ の視聴方法

1. ログイン画面 URL : [http://www.nise.go.jp/nc/training\\_seminar/online](http://www.nise.go.jp/nc/training_seminar/online)  
付与されたIDとパスワードでログインします。  
初めての方は、画面右「利用申請」から利用申請を行ってください。



## 2. コンテンツの選択

コンテンツ一覧から視聴したい講義のコンテンツを選択します。

団体申込みも可能です。  
詳細は [a-manabilabo@nise.go.jp](mailto:a-manabilabo@nise.go.jp) まで



ログイン後のホーム画面です。  
「コンテンツ一覧」のボタンを押します。

170以上の講義コンテンツが、「分類」→「コース」→「コンテンツ」という階層で整理されています。それぞれの階層リストから興味のある内容を選び、視聴したいコンテンツを選択します。

# 免許法認定通信教育

平成28年10月開講

無料

視覚障害領域  
聴覚障害領域  
第2欄の科目

## NISEが実施する免許法認定通信教育

### 講義・教材配信システム

インターネットを利用した

- ・受講申込の受付
- ・放送講義・教材の配信
- ・受講状況確認

受講者のいる都道府県を中心に、全国の複数会場で単位認定試験を実施



パソコン・スマートフォン・タブレット端末等で講義を視聴

免許法認定通信教育総合情報サイト  
<http://forum.nise.go.jp/tsushin/>

## 当面の開講スケジュール（予定）

前期 令和4年5月～令和4年8月

視覚障害教育 心理、生理及び病理

聴覚障害教育 心理、生理及び病理

※ 単位認定試験：令和4年9月11日（日）全国複数会場

後期 令和4年9月～令和5年1月

視覚障害教育 心理、生理及び病理

聴覚障害教育 心理、生理及び病理

※ 単位認定試験：令和5年2月5日（日）全国複数会場

申込み方法はホームページをご覧ください。  
<http://forum.nise.go.jp/tsushin/>

## 受講対象者

特別支援学校や特別支援学級に勤務し、特別支援学校教諭免許状を保有していない教員を優先します。

必要な単位を全て修得

大学・教育委員会等が実施する免許法認定講習等

特別支援学校教諭免許状を取得

特別支援学校教員の特別支援学校教諭免許状取得率向上に寄与



# 研究活動

- 以下のような研究区分により、36名の研究職員が、学校や教育関係者、研究者、関係機関等と協力しながら、特別支援教育に関する研究のうち主として実際的な研究を総合的に実施。

## 重点課題研究

文部科学省との緊密な連携のもとに、国の特別支援教育政策の推進、又は教育現場等の喫緊の課題解決に寄与する研究（2～3年間）

<令和3年度より開始している研究>

- (1) 教育課程に関する研究(国への政策貢献)
  - ・学習指導要領に基づく教育課程の編成・実施・評価・改善に関する研究（令和4年度まで）
- (2) 切れ目ない支援の充実に関する研究(教育現場等の喫緊の課題に対応)
  - ・ICT等を活用した障害のある児童生徒の指導・支援に関する研究（令和4年度まで）
  - ・障害のある子どもの就学先決定の手続きに関する研究（令和4年度まで）
  - ・高等学校における障害のある生徒の社会への円滑な移行に向けた進路指導と連携の進め方等に関する研究（令和5年度まで）
  - ・通常の学級における多様な教育的ニーズのある児童生徒の教科指導上の配慮に関する研究（令和4年度まで）

## 障害種別特定研究

各障害種における喫緊の課題の解決に寄与する研究（2年間）

<令和3年度より開始している研究>

- ・知的障害教育における授業づくりと学習評価に関する研究（令和4年度まで）

## その他

- ・テーマ別研究班（ICT、幼児教育、キャリア教育、外国人児童生徒等）による基礎的研究活動
- ・障害種毎の研究班による基礎的研究活動
- ・外部資金研究（科研費等）

など

# 研究活動への特別研究員の受け入れ

## 特別研究員の参画

- ・特別研究員（地域連携型）を研究所に派遣し、共に研究を行う都道府県・指定都市を公募。
- ・特別研究員（地域連携型）は、教育委員会、教育センターで特別支援教育に関わる職員や、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校等の教員。
- ・申請のあった教職員を、特別研究員（地域連携型）として受け入れ、申請内容を基に参画する研究課題を決定。派遣元の教育委員会を研究協力機関に指定。
- ・特別研究員（地域連携型）は、指定の研究チームに所属し、研究所の職員と共に研究活動を行う。地域の情報を研究チームに提供するとともに、成果を地域に還元する。
- ・令和4年度の特別研究員（4県より5名が参画）
  - 青森県（ICTチーム）
  - 埼玉県（学習評価チーム）
  - 長野県（学習評価チーム）
  - 静岡県（就学チーム、教科指導チーム）

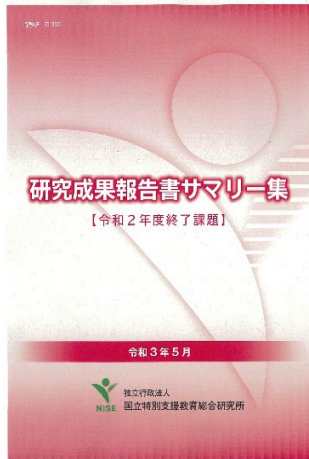
## 令和5年度研究課題等

- ・新規に令和5年度に開始する重点課題研究及び障害種別特定研究について現在検討中。
- ・研究課題決定後に、令和5年度特別研究員（地域連携型）募集要項を発出（10月末～11月頃）。
- ・各都道府県・指定都市・中核市教育委員会、特別支援教育センター、教員養成大学、各種学校長会、関係機関等に、研究課題（新規課題及び継続課題）に関するニーズ調査を実施。

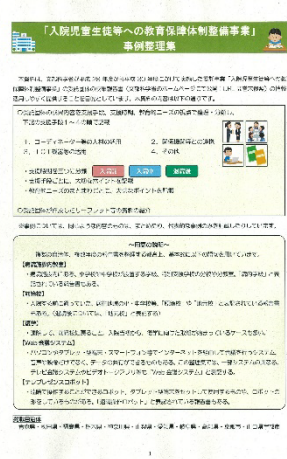
※各研究課題において、質問紙調査や訪問調査を企画・実施する折には、ご協力をお願いします。

# 研究成果の還元

研究成果は、事例集やリーフレット等としてウェブサイトに掲載しており、ダウンロードして活用できます。また、メールマガジンでの発信や研修事業、研究所セミナーでも普及を図っています。



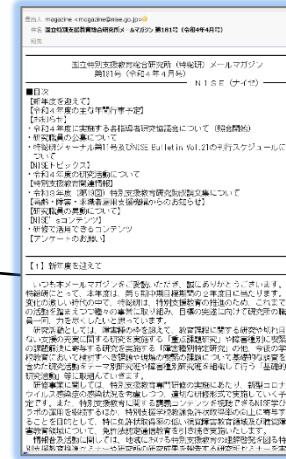
研究成果報告書



事例集



リーフレット



メールマガジン



刊行物(市販)



研修事業(集合型開催時の様子)



研究所セミナー(集合型開催時の様子)

研究成果についてはこちらから御覧いただけます

[https://www.nise.go.jp/nc/report\\_material](https://www.nise.go.jp/nc/report_material)

# 研究成果の普及

先生方が困ったときに、研究所の研究成果物を、簡単にダウンロードして活用いただくために各種リーフレットや事例集の紹介とダウンロード方法を、わかりやすくまとめたリーフレットを作成し、全国の特別支援教育センター等へ配布して、研修会等で先生方に情報提供していただいています。

**先生の困った!** を**解決**するために



**Download**

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所  
National Institute of Special Needs Education

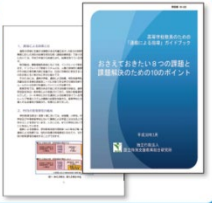
特総研HPで公開中! 子ども一人一人の教育的ニーズに応じた実践事例があります。

リーフレットも  
あります



研究成果をイラスト入りなどで、わかりやすく、ポイントを紹介しています。研修会などで配っていただくなどの活用ができます。

ガイドブック・事例集も  
あります

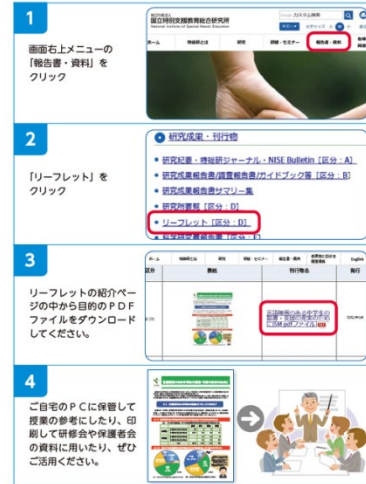


主に、教育現場に携わる先生方へむけての手引書で、わかりやすく内容がまとめられています。

リーフレットを見たい時

まずは、<https://www.nise.go.jp/nc/>へアクセス!

- 1 画面右上メニューの「報告書・資料」をクリック
- 2 「リーフレット」をクリック
- 3 リーフレットの紹介ページの中から目的のPDFファイルをダウンロードしてください。
- 4 ご自宅のPCに保存して授業の参考にしたり、印刷して研修会や保護者会の資料に用いたり、ぜひご活用ください。





**研究成果物リスト**

コチラで紹介しているのはほんの一部です。HPで最新の情報をぜひご覧下さい。

研究成果：発行物のページはこちら

研究成果物	内容	発行年
研究発表報告書マテリアル集	令和2年度終了版	令和3年5月
発達障害者等学習困難者の発達生活等の課題に関する研究 - 特別支援学校（視覚障害）における指導センター -	平成31年3月	
「インフルCOMPASS」ガイド	令和3年2月	
発達障害特別支援学校の授業づくり「すひつと」が活動します!	令和3年7月	
小・中学校における発達障害のある児童生徒への指導及び支援のための地域資源を活用した授業改善に関する研究	令和3年3月	
精神障害及び身体障害のある児童生徒の教育的支援 - 施設入所者研究 -	令和2年5月	
発達障害のある中学生の指導 - 支援の充実のために	令和2年5月	
自閉症のある子どもの自立活動の指導について考えよう!	令和2年5月	
発達障害のある子供の教育にむかふ全ての教員の皆様へ - もしかして、それ... 二児の指導をこなしているかも... ?	令和3年3月	
障がいの子に日のない児童体験活動を支える支援の推進に向けた研修パッケージ	令和3年3月	
障がいと福祉の両方に障害のある子どもたちの育ちと学びのために - 取組例、保護者、関係するみなさまへ	令和3年3月	
発達障害のある子供の教育に関する調査報告書	令和3年3月	
NISE学びナビ: インターネットによる情報提供		
インフルD: インフルエンザ感染システム感染実態調査データベース		
特別支援教育教材ポータルサイト: 支援活動等教材に関する活用方法や取組事例		
NISEチャンネル: YouTubeにて活動紹介動画、研修録動画を配信		
NISE研究紹介ページ: 特総研Webページにて登録する研究所の専門分野を紹介		

研究成果物リスト




研究所ホームページトップ画面から、直接、研究成果物のページへアクセスできるように、トップページに**バナー**や**アイコン**を設置しました。

**先生の困った!** を**解決**するために  
研究成果物のダウンロード方法

特総研より



リーフレット  
(研究成果・刊行物)



ガイドブック  
(研究成果・刊行物)



研究成果・刊行物のページはこちら

# 研究成果の閲覧

詳しくはこちらから御覧いただけます。

## 研究紹介ウェブサイト

<https://www.nise.go.jp/nc/study>

## 研究成果報告書

[https://nc.nise.go.jp/report\\_material/research\\_results\\_publications](https://nc.nise.go.jp/report_material/research_results_publications)

## 研究成果報告書サマリー

[https://www.nise.go.jp/nc/report\\_material/research\\_results\\_publications/seminar\\_materials](https://www.nise.go.jp/nc/report_material/research_results_publications/seminar_materials)

# 研究所の活動や特別支援教育に関する 各種イベント

## 研究所公開

日 程 令和4年11月5日(土)  
場 所 国立特別支援教育総合研究所  
(神奈川県横須賀市)



研究所を身近に感じていただける体験型のイベントです。

## 国立特別支援教育総合研究所セミナー

日 程 令和5年3月4日(土)  
場 所 一橋講堂(東京都千代田区)



研究所の活動や研究成果を報告します。

# 特別支援教育推進セミナー

## 目的

地域における特別支援教育の理解啓発を図るため、教育委員会、特別支援教育センター、関係団体等及び大学と連携を図りながら、インクルーシブ教育システムの構築・推進に寄与する。

## 開催形式

昨今の教育課題に対応した特別支援教育に関する講義や、実践発表、研究協議を実施。

全国を6ブロック（北海道・東北ブロック、関東甲信越ブロック、東海・北陸ブロック、近畿ブロック、中国・四国ブロック、九州ブロック）に分け、参加者はブロック内の他の自治体や学校の参加者と交流を図ることで、新たな視点や知見を広げる機会とする。

令和4年度は、関東甲信越ブロック、東海・北陸ブロック、近畿ブロックで開催。

## 関東甲信越ブロック対象

日時

令和4年11月30日(水)11時～17時

テーマ

「学校現場における組織的なICT活用の実際」

## 近畿ブロック対象

日時

令和4年12月8日(木)13時～17時

テーマ

「保護者や関係機関との連携による発達障害のある子供の理解と支援」

## 東海・北陸ブロック対象

日時

令和4年12月9日(金)13時～17時

テーマ

「地域におけるインクルーシブ教育システムの推進ー共生社会の実現に向けてー」(仮題)

# 「特別支援教育リーフ」 Vol.1 刊行

## ここからはじめてみよう、特別支援学級

小・中学校等で初めて特別支援学級や通級による指導を担当する先生、特別支援教育について学ぶ機会がなかなか得られなかった先生に向けて、取組んでいくためのヒントとなる情報を記載した「特別支援教育リーフ」を作成。（Vol.1 刊行）

ホームページよりダウンロードできます

[https://www.nise.go.jp/nc/report\\_material/research\\_results\\_publications/leaf\\_series](https://www.nise.go.jp/nc/report_material/research_results_publications/leaf_series)

### ①「まずはここから」シリーズ



まずはここから

対象

主に特別支援学級の担任（号によっては通常の学級の担任や通級による指導の担当）

ねらい

特別支援教育の経験の浅い教員が、特別支援教育を構成する基本的な事柄を理解する契機とする。

### ● Vol.1 ここからはじめてみよう、特別支援教育

対象：初めて特別支援学級の担任になった先生

ねらい：特別支援学級の担任を務めることになって不安に感じている先生に、まず読んでほしい内容をまとめています。



### 一人一人に合った学びを考える

特別支援教育では、障害による特性を理解し、その特性に応じた学習方法についての知識などが求められますが、それだけで成り立つものではありません。目の前の子供一人一人に合った学習活動を考えるということが何よりも大切で、これは、これまで先生方が通常の学級で、それぞれ子供の学習の進め方やペースなどに合わせた指導や支援をしてきた経験が生かせるものです。このような意味で、「特別支援教育」は「特別な教育」ではないのです。

- ◆「特別支援教育」を「特別な教育」と考えず、これまでの経験を生かして、目の前の子供一人一人に合った学習活動を考えましょう。
- ◆特別支援学級で経験が積むことで、多様な子供たちに対して、対応できる方法をこれまで以上に身に付けることもできます。

### 特別支援教育は「特別な教育」か？

皆さんは、特別支援学級の担任を務めることになったら、どのように思われますか。「特別支援教育には高い専門性が必要そうだが、務まるだろうか」と思われるかもしれません。確かに、障害についての理解や、各障害に応じた学習方法についての知識などが必要とされるでしょう。しかし、それだけではありません。特別支援学級の担任に求められる最も大切なことは、一人一人の子供がどのようなことに興味や関心があるか、得意なことや苦手なことは何かを学校生活の中で把握することです。

皆さんは、今まで授業の中でも、一人一人の子供の様子を丁寧に観察してきたのではないのでしょうか。おそらく、どの先生も子供の様子を逐一に逐一に授業を進めてはなかったはずです。うまくいかない子供に別の見方から考えるような声掛けをしたり、課題に取り組みやすくなるような教材・教具を用意したりするなど、子供が学習する上で悩んだり、困っていることに対して、その子供に応じた取組みを工夫されてきたのではないのでしょうか。まさに特別支援教育は、このような取組みです。

特別支援学級での教育は、これまで行ってきた教育と全く別の教育ではないです。これまでなかなか十分に取組みなかつた一人一人に応じた指導が存分に行える場でもあります。これまで経験したり、学んだりしてきたこと各々に立って特別支援学級の担任に臨んでみて下さい。





# メールマガジン、LINEのご案内

## メールマガジン

毎月ご案内。

【 主な内容 】

- N I S Eからのお知らせ
- N I S Eに関するトピックス記事
- 研究成果、海外情報の紹介
- 特別支援教育関連情報
- N I S Eダイアリー（理事長によるコラム）



下記のURLやQRコードより登録が可能です。

[https://nc.nise.go.jp/about\\_nise/mail\\_mag](https://nc.nise.go.jp/about_nise/mail_mag)

## LINE

毎月2～3回ご案内。

【 主な内容 】

- N I S Eからのお知らせ
- HP未掲載のプチ情報



# 発達障害教育関連情報の充実

## ●発達障害教育推進センターWEBサイトによる情報提供



## コンテンツ

発達障害の理解

指導・支援

研修講義動画

発達障害Q & A

当研究所の研究

国の動向や法令

イベント情報

文部科学省と厚生労働省の両省による 家庭と教育と福祉の連携 「トライアングル」 プロジェクトのプロジェクト報告（平成30年3月）を踏まえ、国立障害者リハビリテーションセンター発達障害情報・支援センターと連携し、全てのライフステージにおいて切れ目のない支援が行われるよう、ポータルサイトを作成するなど、情報提供の充実を図る。

# 発達障害ナビポータル

発達障害のあるご本人やご家族に向けた情報を中心に、その方々の暮らしを支える教育、医療、保健、福祉、労働の各分野の情報を発信する国のサイト「発達障害ナビポータル」を国立障害者リハビリテーションセンター発達障害情報・支援センターと共同で運営しています。



<共同運営> 国立障害者リハビリテーションセンター  
独立行政法人国立特別支援教育総合研究所

# 地域支援事業

## 教育委員会と研究所が連携して 地域のインクルーシブ教育システム構築を 推進する事業です

### 具体的には・・・

- 研究所と日常的に連携して、インクルーシブ教育システム構築に関する課題の解決に向けた取組を推進します
- これまでの「地域実践研究」の研究成果を活用できます
- 他の地域と情報交換することができます
- 事業の成果を、研究所と協働して地域に普及することができます



### 事業内容の例

- 専門性のある指導体制の確保  
教育委員会主催の研修  
切れ目ない支援体制
- 交流及び共同学習の推進
- インクルーシブ教育システムに関連した理解啓発  
通常の学級担任向けの校内研修プログラム  
障害理解授業  
リーフレット作成

現在、令和5年度の事業に参画する都道府県及び市区町村教育委員会を公募しています。(〆切:11月30日(水))。事業申請をお待ちしております。

# 地域支援事業

## 令和4年度参加自治体（13県市町）

- ・札幌市（北海道）
- ・釜石市（岩手県）
- ・鹿沼市（栃木県）
- ・さくら市（栃木県）
- ・下野市（栃木県）
- ・厚木市（神奈川県）
- ・葉山町（神奈川県）
- ・長野県
- ・須坂市（長野県）
- ・飯田市（長野県）
- ・犬山市（愛知県）
- ・箕面市（大阪府）
- ・鹿屋市（鹿児島県）



## 令和4年度の実施計画

- ・4月1日 事業開始 ～ 3月31日 終了
- ・4月28日 事業説明会（オンライン）
- ・8月26日 推進プログラム（研究所及びオンライン）
- ・3月上旬 事業報告会（オンライン）  
各自自治体での報告会等



# インクルーシブ教育システム構築支援データベース（インクルDB）

インクルDB（インクルーシブ教育システム構築支援データベース）は、子どもの実態から、どのような基礎的環境整備や合理的配慮が有効かについて、参考となる事例を紹介しています。また、研修会での事例検討にも活用できます。インクルDBは、各学校の先生方だけでなく、保護者の方をはじめ、広く一般の方にもご利用いただくことができます。

交流及び共同学習の事例や関連情報、インクルDBを活用した研修例を掲載しています。教育委員会や教育センター、校内等での研修に是非ご活用ください。

令和4年8月 事例掲載数：590件

Aさんは字を書くのが苦手  
で困っているみたい。なんと  
かしてあげたいわ。



①

そうだ！このあいだの研修会  
で「インクルDB」のお話が  
あったわ。早速調べてみよう。



②

字を書くことに関するたくさん  
の事例があるわ。なるほど、こん  
な合理的配慮もあるのね。



③

保護者の方と支援の内容や方  
法について合意形成します。



④

Aさんは、字が書きやす  
くなったみたい。よかったわ。



⑤

合理的配慮や  
基礎的環境整備の  
に関する情報を  
ダウンロードできます。

インクルDBウェブサイト<http://inclusive.nise.go.jp/> または

インクルDB



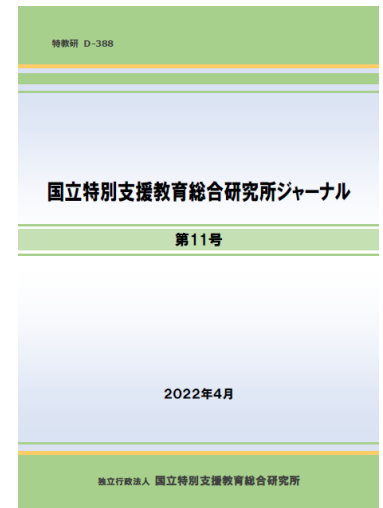
で検索！

# 諸外国の最新情報の収集と発信

- ・海外のインクルーシブ教育システムに関する情報を収集し、研究所セミナー、ジャーナル等で広く発信しています。
- ・海外の研究機関等との交流、研究職員の海外派遣、海外の教育行政担当者や学校教員等の視察・研修の受け入れ等を通じて国際交流を推進しています。

## ○国立特別支援教育総合研究所ジャーナルでの発信

収集した海外の情報を、特総研ジャーナルより情報発信。「各国におけるインクルーシブ教育システムの動向」を紹介しています(ウェブサイトから御覧いただけます。)



ジャーナル第11号  
(令和4年4月発行)

## ○海外の研究機関との研究交流の推進

### 【 研究交流協定締結機関 】

韓国国立特殊教育院(平成7年11月締結,令和元年7月再締結)

ケルン大学人間科学部(平成10年11月締結)

フランス国立特別支援教育高等研究所(平成27年3月締結)

## ○韓国国立特殊教育院との交流

両機関の情報共有と交流を深めるため、特別支援教育協議会(仮称)の開催等を実施。

# 欧州特別支援教育機構によるインクルーシブ教育 システム構築のアプローチの分類

## ➤ 単一路線型

フルインクルージョンを進める(イタリア、ノルウェー、スウェーデン等)

## ➤ 明確に区別される二線型

特別な学校への就学率が高い(スイス、ベルギー等)

## ➤ 多様な学びの多重線型

ニーズに応じた多様な学びの場を用意  
(イギリス、フランス、フィンランド、オーストラリア等)

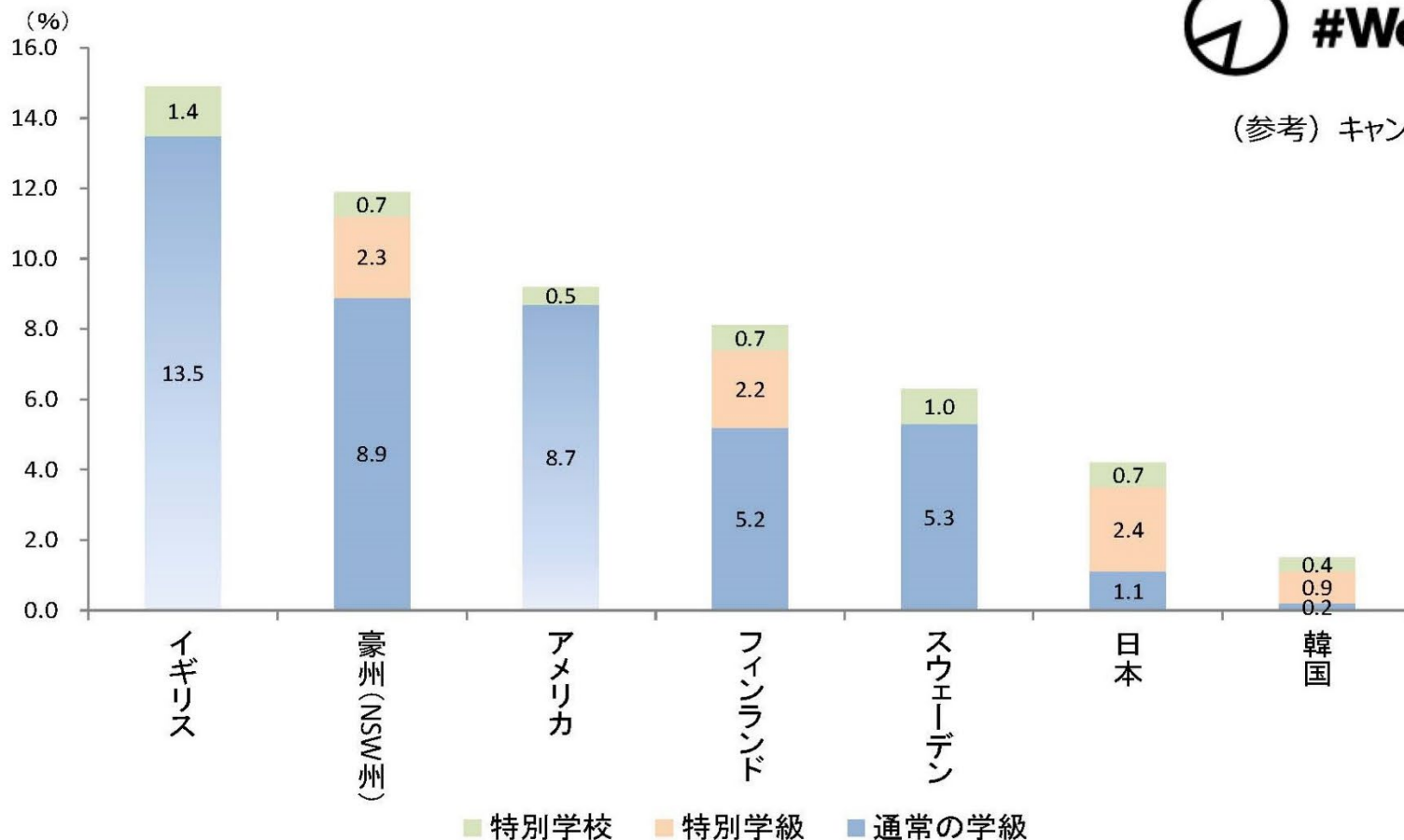


# 特別支援の対象となる子供の割合に関する国際比較

- ◆ 日本における特別支援教育の対象となる子供の割合は、イギリスやアメリカより低い。
- ◆ 2020東京パラリンピック大会において、国際パラリンピック委員会等によって行われた“#WeThe15”キャンペーンによれば、何らかの障害のある者は全世界で12億人（全人口の15%）。

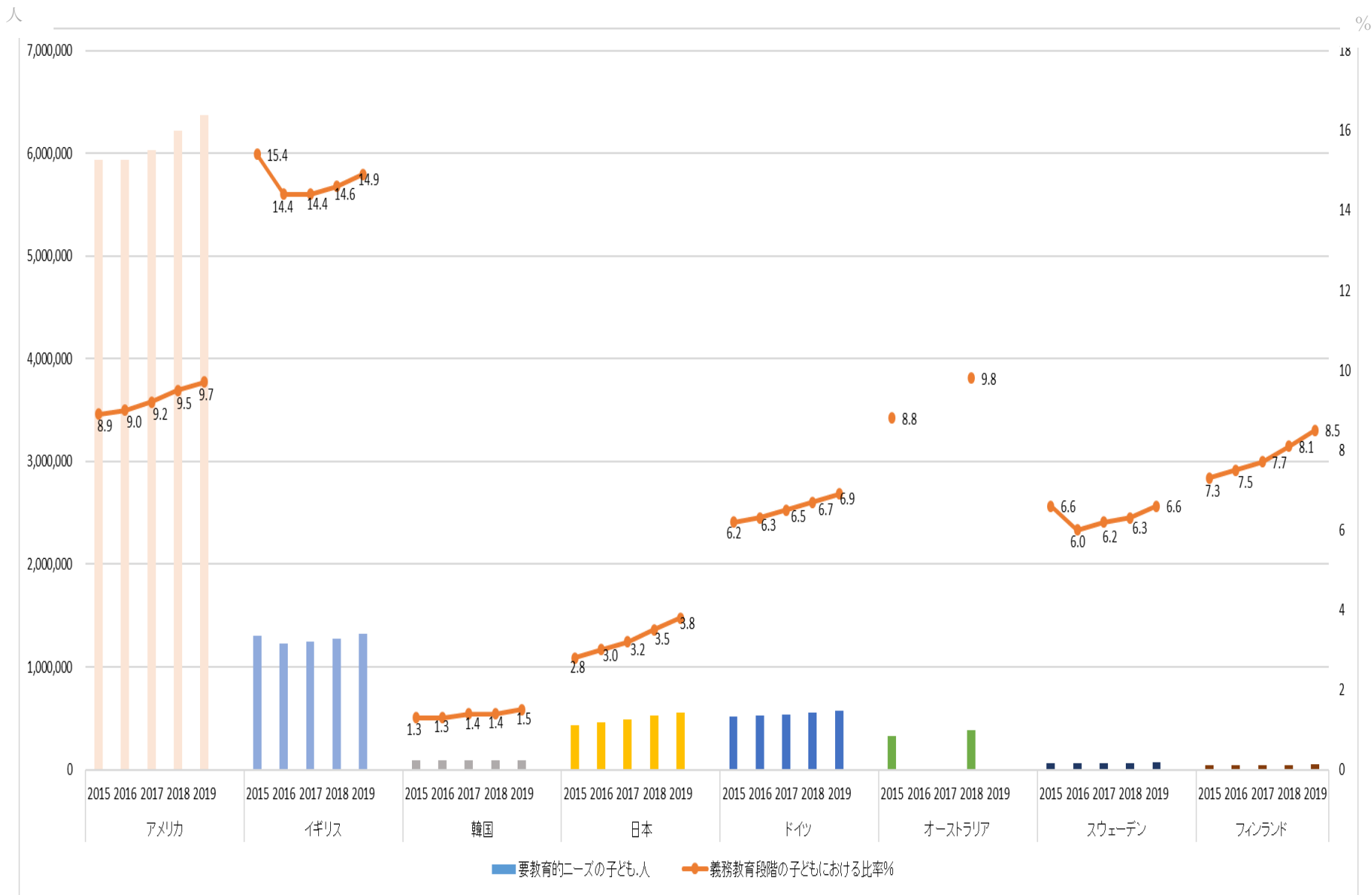


（参考）キャンペーンのロゴ

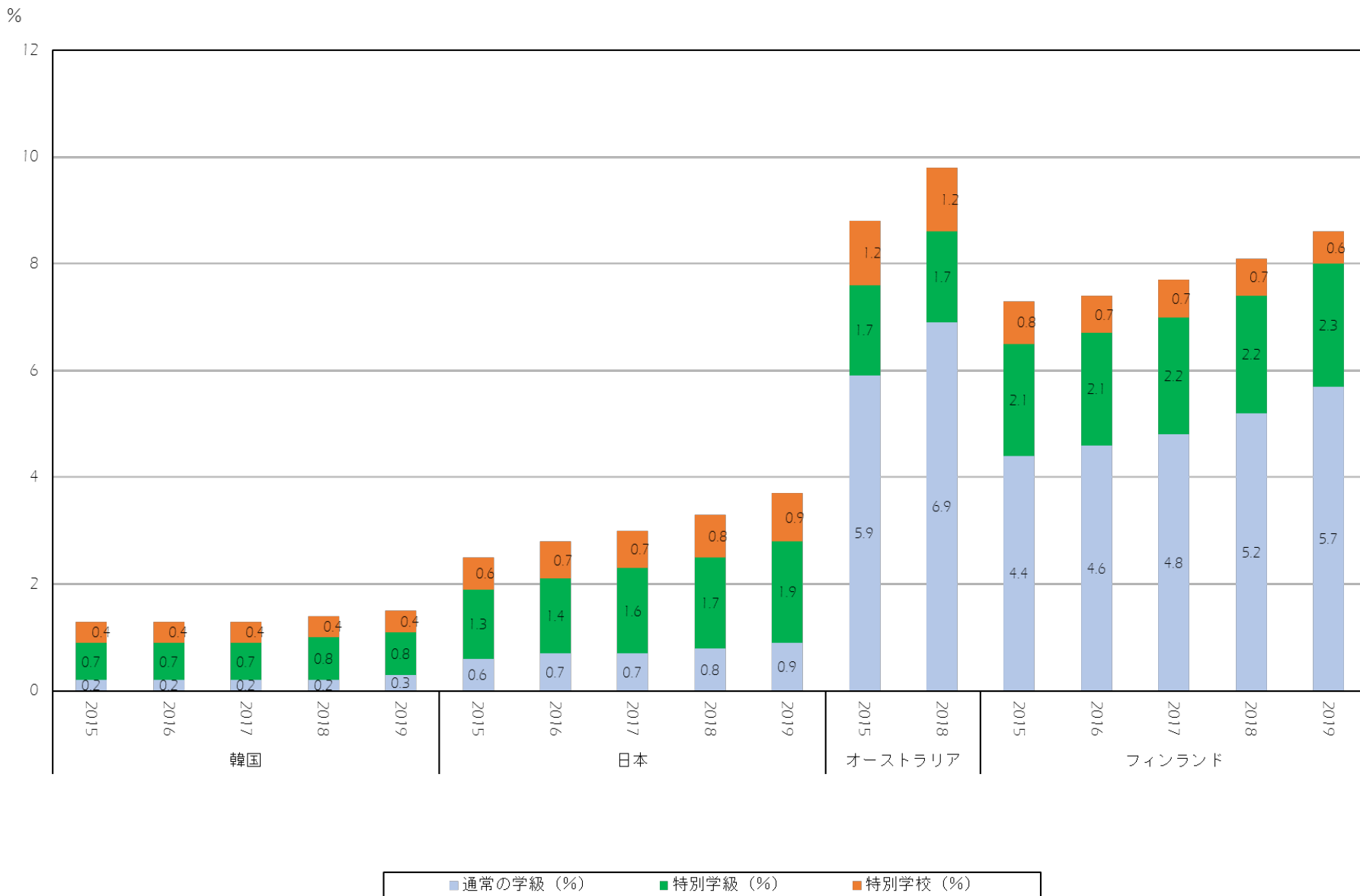


※「諸外国におけるインクルーシブ教育システムに関する動向—令和元年度国別調査から—」(国立特別支援教育総合研究所)より。  
イギリスは2019年、豪州は2018年、アメリカは2016年、フィンランドは2018年、スウェーデンは2018/2019年、日本は2018年、韓国は2019年の統計情報  
※文部科学省初等中等教育局特別支援教育課作成資料。

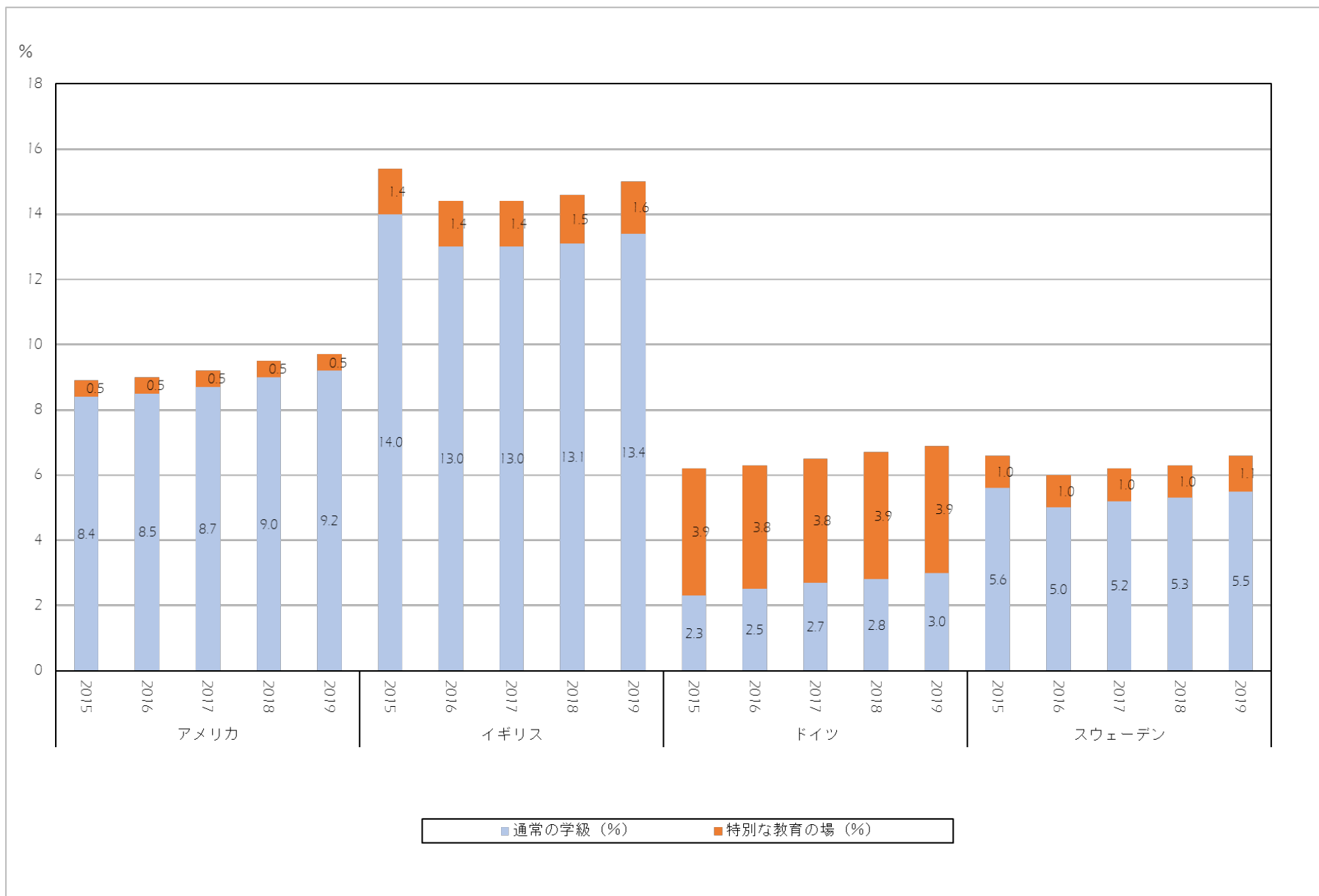
# 特別支援の対象となる子供の人数と割合の経年変化に関する国際比較



# 特別支援の対象となる子供の学びの場とその内訳の経年変化に関する国際比較（1）



## 特別支援の対象となる子供の学びの場とその内訳の経年変化に関する国際比較（2）



# 特別支援教育の学びの場における外部人材の登用、免許の在り方の国際比較(1)

国名	<p>①特別支援教育の学びの場を支える教員以外の人はどのような人が配置されているか。</p> <p>②特別支援教育の学びの場を担当する教員が有している資格、免許。</p>
アメリカ	<p>①聴覚士、カウンセラー・リハビリテーションカウンセラー、通訳、医療・看護サー ビス職員、作業療法士、歩行訓練士、体育教師及びレクレーション・セラピューティックレクリエーションスペシャリスト、理学療法士、心理士、ソーシャルワーカー、言語病理学士</p> <p>②教員免許は州の法律に基づいて規定される。通常教育教員の免許要件に障害のある子供の指導内容を含む州の増加がみられる。特別教育免許は障害種ごとに取得する必要がある。ただし、障害カテゴリーに基づく区分の排除が進んでいる(学年や障害の程度に対応する傾向、ノンカテゴリー化)</p>
イギリス	<p>①巡回教師、支援員、療法士</p> <p>②公立学校の教員資格は教育大臣が認定する正教員資格(QTS)がある。特別学校で教えるための特別な教員免許状はない。</p>
日本	<p>①特別な教育的ニーズのある子供の支援を中心に行う特別支援教育支援員。医療的、心理的ケアを行う学校看護師、スクールカウンセラー。また言語療法、理学療法等に関する支援を要する場合は、言語聴覚士、理学療法士等の外部専門家と連携する。</p> <p>②・教員は、教育職員免許法により授与される各相当の免許状を有する者でなければならない。授与権者は都道府県教育委員会。特別免許状とは、教員免許状を持っていないが優れた知識経験等を有する社会人等を教員として迎え入れる制度であり、こうした学校現場の活性化に係る制度がある一方、免許主義の例外として、教員免許を有しない非常勤講師を登用し、教科の領域の一部を担当させることができる特別非常勤講師の制度がある。</p> <p>・特別支援学校教諭の免許状は、基礎資格として通常の学校の普通免許状を授与された者が一定の単位を得たうえで、特別支援教育領域を定めて授与される。</p>

## 特別支援教育の学びの場における外部人材の登用、免許の在り方の国際比較(2)

国名	①特別支援教育の学びの場を支える教員以外の人とはどのような人が配置されているか。 ②特別支援教育の学びの場を担当する教員が有している資格、免許。
韓国	①支援員(特殊教育補助員制度) ②教員資格は教育部長官の委任を受けた市・道の教育長が交付する。通常の学校の初等教員資格には、校長、教頭、一級正教師、二級正教師、準教師があり、中等教員資格も同様である。特殊教育教師免許は、特殊教育教員養成大学を卒業する場合または、通常教育教師免許を有し、教育大学院又は教育部長官が指定する大学院において特殊教育を専攻した場合に付与される。
ドイツ	①特殊学校から巡回指導等のために教員が派遣される ②教員免許状の種類については、各州が定めているが、学校種類別と教育段階別に大別され、多くの州では(16州中の12州)では、学校種類別の免許状を交付。特殊教育免許については6種類の障害領域が設定されている。
オーストラリア	①学習支援専門教員、学習支援員、スクールカウンセラー。学校内で作業療法、言語療法、理学療法、行動療法、運動生理に関する支援を要する場合は、該当する外部専門家と連携する。 ②各州は教員資格を出すことのできる機関を認定しており、教員志望の者は大学か高等教育カレッジ、大学院で教員資格を取得する。教員資格に特別支援学校、特別支援学級といった区分はない。

## 特別支援教育の学びの場における外部人材の登用、免許の在り方の国際比較(3)

国名	<p>①特別支援教育の学びの場を支える教員以外の人はどうような人が配置されているか。 ②特別支援教育の学びの場を担当する教員が有している資格、免許。</p>
スウェーデン	<p>①外部の特別教員/特別教育家、国立特別教育学校当局(SPSM)等の専門家、県立の療育機関であるハビリテーリングセンターとの連携による療法士の派遣、コミュニケーションのリソースセンターからの支援、学校ソーシャルワーカー、言語療法士、支援員(教員免許を持たないアシスタント教員と、特定の子供のための子供アシスタントがいる。)</p> <p>②教員登録の手続きを終えた教員にのみ教員免許が授与される。登録に必要な書類は、学位記、スウェーデン語の語学証明書、教職履歴書である。特別ニーズ教育にかかわる専門教員は特別教員と特別教育家の2種類がある。後者は助言を行う専門教員の位置づけである。</p>
フィンランド	<p>①学校看護師、学校医、学校ソーシャルワーカー、学校心理士、学修・進路指導カウンセラー、学習支援員、介助支援者、通訳。必要に応じて、国立の特別支援教育機関であるヴァルテリによる外部専門家の支援。</p> <p>②初等及び中等教育教員(職業教育教員を含む)となるためには、修士号レベルの学位(通算5年間。学士レベルは3年間)の取得が求められ、この修士号が教員免許に相当する。特別支援教育教員についても修士号レベルの学位の取得が求められ、特別支援教員養成課程において修士号を取得する、又は修士号もしくは学級担当教員(教育学分野の修士号が必要)の資格を取得した上で、特別支援教員養成コース(60単位相当)を履修することが求められる。</p>

# お知らせ

国立特別支援教育総合研究所に  
関する情報は、

<https://www.nise.go.jp/nc/>にアクセス

または、   で検索！

